

包括的な業績評価を望む

柳 久子

人間総合科学研究科助教授

大学教官の業績をどのように評価するか、という課題は重要でかつ難しいが、今、積極的にその方法を模索すべきであろう。評価基準を作成することは、大学教官の仕事の方向性を規定することにもつながる。社会医学系では、任期制導入の議論の中で、教官の（再任のための）業績評価基準の作成を試みた。任期制は、新学類設立や（医療短大から看護・医療科学類へ）、法人化と重なった結果、未だ導入されていないが、当時、評価基準については、かなりの議論が重ねられ、完成度の高いものになったと思う。

今回いただいたテーマは、「研究評価」、ということだが、従来の教官の業績が研究面重視であったことが、教官の教育に対する情熱を奪い、大学教育の質の低下を招いていることも確かである。当時我々は、教官の業績を研究面だけではなく、教育を含む大学人としての活動全般として包括的に

評価する尺度を作ろうと努力した。研究分野の違いはあるが、評価する項目や点数を変えれば、かなりの分野で使用可能ではないかと思う。以下、当時の最終案を紹介するが、あくまで、任期制とセットで考えられたものであるため、その部分は割愛した。

業績評価の理念

社会医学という専門分野の特殊性を鑑み、業績評価として、研究業績のみを偏重するのではなく、外部資金の獲得状況、社会への貢献度、大学への貢献度、大学院に関する実績を総合的に評価すべきである。

評価は5つの側面から

評価尺度は以下の5つの軸によりなる。詳細は別に定める。

1. 外部資金の獲得状況
2. 研究業績
3. 社会への貢献度

4. 大学への貢献度

5. 大学院に関する実績

評価基準詳細 別表

評価項目	大学評価基準項目は原則としてその点数を用いる	点数	備考
1. 外部資金の獲得額			
	科研費		
	他の公的資金		
	民間資金		
	物品・現物給付(評価額)		
	合計	100万円につき	1 詳細は別掲
2. 研究業績			
論文・総説・著書(分担)	欧文	1本	2
	うち筆頭と corresponding author		5 3点加算
	和文		1
	うち筆頭		2 1点加算
著書	impact factor	1点	3
	編集	1冊	2
	全編執筆	1冊	5
その他	invited speaker	国内	1
	(学会)	国際・海外	2
3. 社会への貢献度			
	審議会等委員	大学評価基準	別掲(最低1件1点)
	その他委員等		1
	指定研究班長		5
	各賞受賞	大学評価基準	別掲(最低1件1点)
	精神鑑定	1件	1
	司法解剖	1件	1
	特許出願	1件	2
	特許取得	1件	10
	学会理事・評議員	1件	1
	大会長等(地方会)	1件	5
	大会長等(全国)	1件	10
	大会長等(国際学会)	1件	20
	企業役員・起業	1件	1
	学術番組への出演	1件	1
	講演会等開催あるいは講師	1件	1
	国際貢献	1件	1
	editorial board	1件	1
	研究成果の社会への還元	1件	1
	地域における各種事業	1件	1
	地域ネットワーク(システム情報工学研究科)の構築	1件	1
	感謝状	1件	1
	ボランティア活動	1件	1
	危機(災害)管理への協力	1件	1
	他大学の非常勤講師	1大学	1

4. 大学への貢献度

授業 (大学院を含む)	1コマ	0.5	
実習 (大学院を含む)	1クール	1	
担任、学年主任		1	主任は別に1点
授業等codinator	1件	1	
セミナー、公開講座		1	
学内各種委員、委員長		1	役職は別に1点
入試委員・問題作成		1	詳細は明記せず
学内刊行物の編集・執筆		1	
学術振興会特別研究員の採択	1人	10	
教員協議会等への出席	8割以上	5	
	5割以下	-5	

5. 大学院に関する実績 (名目上の指導は含めない)

修士論文数		1	
修士課程学生数 (現在のみ)		1	
博士論文数		1	
博士課程学生数 (現在のみ)		1	
研究生数		1	
指導学生 (卒業生を含む) の各種受賞		1	
指導学生 (卒業生を含む) の活躍		1	
指導学生の学会発表	1報	0.2	
大学院生等の研究費獲得	一件	1	

別掲

外部資金の獲得額は任期中の合計額で評価する			
100万円未満 (0は含まない)		1	
100万円を超えるごとに		1	1点追加
例) 100万円以上200万円未満		2	
任期を超える内定分を加えることができる			
研究代表者・主任研究者		全額	
研究分担者	分担金明示	当該金額	
非明示		頭割り)	
各賞			
ノーベル賞・それに準ずるもの		50	
学士院賞・恩賜賞		25	
朝日賞など広領域の賞		20	
学会賞など全国・特定領域の賞		10	
学会奨励賞など限定・特定領域の賞		5	
つくば賞など地方・広領域		5	
その他		1	
審議会等委員			
政府レベル		5	
都道府県レベル		3	
市町村レベル		1	

評価の運用

5つの軸（側面）ごとに合計点を算出する。任期制における再任には、役職別、側面別に基づ点を定め、任期中の合計点が5側面中3側面以上基準を満たすことを要求することを考えていた。

労していたことを、懐かしく思い出した。

(やなぎ ひさこ/社会医学系福祉医療学)

包括的評価

この評価基準作成にあたって、研究業績の評価は最も客観的で測定が容易な側面であった。本当に難しいのは、ひとりの大学教官の教育評価と研究評価というような、全く質の異なるものを総合的に包括評価することであると考え。この部分こそ、活発に議論されるべき重要なテーマだと思う。その意味で1つの参考事例となると思う。

おわりに

まだ使われていない評価基準であり、今回、約2年ぶりに見直した。今見ても良くできた尺度であると思うし、評価を導入してから不都合な点は見直せるので、任期制とは切り離しても、導入する価値はあるかもしれない。

最後に、「大学への貢献度」の中に、「学内刊行物の編集・執筆」とあるが、これにはもちろん「筑波フォーラム」も含まれる。評価基準作成当時、筆者が筑波フォーラム編集委員会の副委員長として原稿集めに苦